

愛知学院大学
第240回モーニングセミナー

「能登半島地震から2年」
被災記者が記録した肉声と景色
－南海トラフへの備え－

中日新聞社 七尾支局長
前口 憲幸

2026年3月3日

孤立集落 挑んだ集団避難

能登半島地震「風呂行こう」響いた言葉

能登半島地震では孤立集落が各地で発生した。道路は寸断、通信も途切れ、救助を請うままな状況のなかで、石川県輪島市中心部から東に十数kmにある南志見地区は、集落の住民を丸ごと移動させる集団避難に挑んだ。(梅田盛晴)

石川県輪島市南志見地区の住民避難と対応状況

- 1月1日 ①旧南志見小学校校舎や②公民館と体育館などに住民たちが避難。車の中で夜を明かす人もいた
- 2日 消防分団がトイレ用に使う水を確保。火災も発生。輪島市の空が市中心部の火災で赤く染まったのを見た人もいた
- 3日 公民館と体育館で炊き出しが始まる。1日2食、約400食分を提供
- 夜、富山県から消防分団員が車で地区内に戻る。外部に通じる道があることがわかる
- 飲料や米を炊くための水がなくなりかけて困る
- 3日 消防分団員が地区外から灯油などの燃料を確保する
- 自衛隊ヘリで救援物資が届く。④のグラウンドに避難
- 4日 物資が届き始める。次第に物資の置き場所や支援物資の管理に困る。給水車や災害派遣医療チーム(DMAT)も地区内に入る。炊き出しは毎日続く。自宅が住める状態の人は戻ったり、地区外に出たりする人もいた。避難所ではトイレの水をバケツでトイレまで運ぶ。中学生たちも積極的に手伝う
- 8日 夜、消防分団長の金子長継さんが吉田修景課に電話
- 9日 夜、吉田修景課が体育館や小学校の住民の前で、地区から出て、金沢に避難することを呼びかける
- 10日 住民の多くが金沢の避難所などに移ることに賛同。自衛隊ヘリで⑤多目的グラウンドから輪島市内に移り、同市内から金沢方面にピストン輸送する。自家用車がある人は、車で金沢方面などに向かった
- 11日 発生から1週週がたった1月8日夜、携帯電話の電波がかろうじて入る地区の端っこで、輪島市消防団南館で住民の前歩み出した



- ① 旧南志見小学校 高台にあり、地震発生直後から住民らが身を寄せた。約100人が校舎内の教室に分散して避難した。校庭では近くのプールに残っていた水をポンプでくみ上げ、トイレを流すための水として活用
- ② 公民館と体育館 約200人が体育館などに避難。避難者は自宅から布団やストーブを持ち寄った。公民館の調理室が炊き出しの拠点となった。1日400食を提供した。橋を流れる南志見川から水をくみ上げてトイレを流す水を確保した。車中泊する人たちも身を寄せた
- ③ 多目的グラウンド 自衛隊ヘリの離着陸場所として活用した。3日から救援物資の受け入れ場所となった



避難所となった南志見公民館の出入り口。「避難民は〇になりました」と紙が張られている＝1月30日、石川県輪島市里町で

志見消防分団の金子長継団長(61)が語った。「なんとかしてくれ」

「奥能登全域が被災し、電気、水道はまだまだ来ない。金沢へ移動してほしい。準備と調整し、集団避難実施の内諾を得てほしい。法的根拠はない。この地域での避難でもない。批判は覚悟していた。大動脈の国道249号が寸断され、電気と水道の復旧見通しは立たない。衛生の悪化が心配。二時的に安全な所」と伝えた。住民たちは、体育館や旧小学校校舎などで何日も暮らすのが賛同した。避難所は次第に居よくなった。炊き出しは約400人が、1日2食が限界だった。雑魚飯調理は切らなくなった。足のない高齢者を、荷物用台車やトイレまで運んで行く避難者もいた。公民館の浜高元さん(58)は、「いつまで続かないか」と、終りの見えない恐怖を感じてきた。吉田修景課が長期滞在を要した。浜高さんが長期滞在を要した。孤立状態を脱したほか地区もあり、聴覚障害者は19日の記者会見で孤立集落は実質的に解消したと述べた。

「奥能登全域が被災し、電気、水道はまだまだ来ない。金沢へ移動してほしい。準備と調整し、集団避難実施の内諾を得てほしい。法的根拠はない。この地域での避難でもない。批判は覚悟していた。大動脈の国道249号が寸断され、電気と水道の復旧見通しは立たない。衛生の悪化が心配。二時的に安全な所」と伝えた。住民たちは、体育館や旧小学校校舎などで何日も暮らすのが賛同した。避難所は次第に居よくなった。炊き出しは約400人が、1日2食が限界だった。雑魚飯調理は切らなくなった。足のない高齢者を、荷物用台車やトイレまで運んで行く避難者もいた。公民館の浜高元さん(58)は、「いつまで続かないか」と、終りの見えない恐怖を感じてきた。吉田修景課が長期滞在を要した。浜高さんが長期滞在を要した。孤立状態を脱したほか地区もあり、聴覚障害者は19日の記者会見で孤立集落は実質的に解消したと述べた。

「能登はやさしや」伝えたい

首都圏の読者へメッセージ 前口憲七 七尾支局長

能登半島地震取材する記者の思いをつづった前口憲七、七尾支局長の「能登取材の今」(1月1日特報面)掲載を読んだ方々から、本社や支局に励ましの声が届いています。読者の皆さんに伝えられながら取材を続ける前口支局長から、首都圏の読者へのメッセージを紹介します。

取材日記⑨

断水が続く中、ガスコンロで水を沸かし、コーヒを入れて記者を迎えます。飾らぬ言葉で、時に涙しながら話してくれ、帰りが際、壊れた棚からカンを出して「持つて」。これが能登の被災者です。東京都心が積雪を観測

口で水を沸かし、コーヒを入れて記者を迎えます。飾らぬ言葉で、時に涙しながら話してくれ、帰りが際、壊れた棚からカンを出して「持つて」。これが能登の被災者です。東京都心が積雪を観測

暮らしのヒント

ドクターQ&A 頭痛の種類⑨

Q 市販の頭痛薬を飲み続けていますが、大丈夫でしょうか？

A 市販薬や処方薬を問わず、服用する上で重要なことは決められた用法や用量を守ることです。しかし、市販の頭痛薬はその手軽さから日常的に服用してしまう人が多く見られ、「薬物乱用頭痛」



におちいってしまうケースがあります。頭痛だけでなく、膝や腰の痛みを緩和するために鎮痛薬を多用する人も多く見られます。薬の頼りすぎには注意してください。

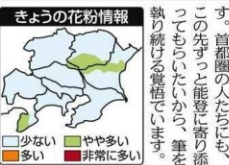
(監修：東京頭痛クリニック理事長、にわファミリークリニック院長・丹羽潔さん)

本紙が月1回発行する「暮らしのヒント」から記事を選択して掲載します。



被災地を取材する前口支局長。9日、石川県珠洲市で

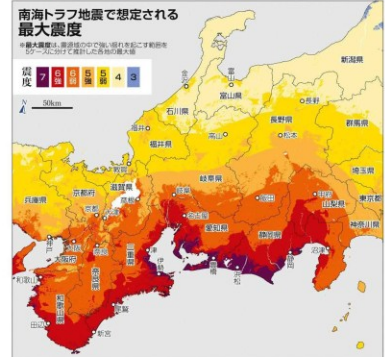
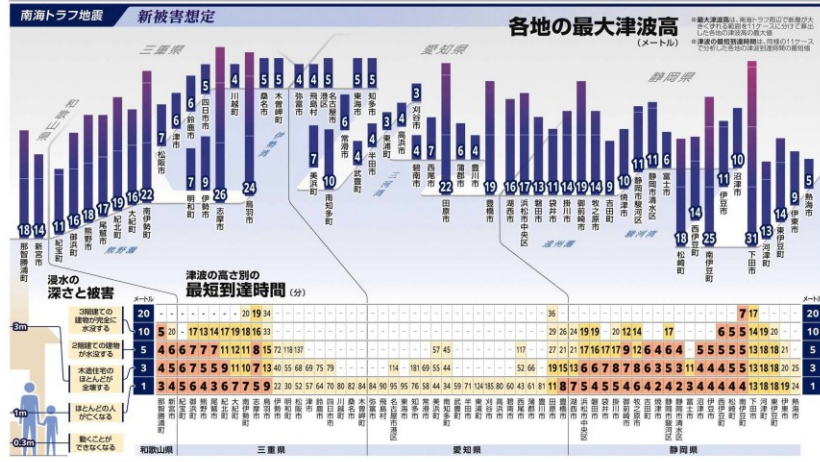
まえぐち・のりゆき 北陸本社報道部では主に調査報道を担当。警察司法キャップやニュースデスクなども務めた。2023年3月から現職。被災した七尾支局で地震取材を指揮する。



し、多くのけが人が出た。目当初、避難所をテレスを囲むお年寄りがいます。「都会の人へ大変や、雪で転ぶ。かわいそうに」を繰り返しています。首相の視察が早いこと嬉しいが、国会議員が炊き出しを食卓に非と、譲渡は大事です。でも、それよりも能登の被災者を知ってほしい。能登半島で暮らす人々の温かい言葉を、能登はやさしや土までものリアルを首都圏の読者にもっと伝えたい。その心でいます。立春を過ぎたとある日、1日の記事を読んだ群馬県桐生市の読者から七尾支局に便りが届きました。便箋に「能登の皆さんの情けに触れました。そして、記事

「奥能登全域が被災し、電気、水道はまだまだ来ない。金沢へ移動してほしい。準備と調整し、集団避難実施の内諾を得てほしい。法的根拠はない。この地域での避難でもない。批判は覚悟していた。大動脈の国道249号が寸断され、電気と水道の復旧見通しは立たない。衛生の悪化が心配。二時的に安全な所」と伝えた。住民たちは、体育館や旧小学校校舎などで何日も暮らすのが賛同した。避難所は次第に居よくなった。炊き出しは約400人が、1日2食が限界だった。雑魚飯調理は切らなくなった。足のない高齢者を、荷物用台車やトイレまで運んで行く避難者もいた。公民館の浜高元さん(58)は、「いつまで続かないか」と、終りの見えない恐怖を感じてきた。吉田修景課が長期滞在を要した。浜高さんが長期滞在を要した。孤立状態を脱したほか地区もあり、聴覚障害者は19日の記者会見で孤立集落は実質的に解消したと述べた。

視野に入れたいとして、視界が狭く、相手を避けることもあった。ただ、吉田修景課の呼びかけは「まだ弱い」と感じた。住民は土地への愛着の強さ、慣れた場所に移る不安がある。浜高さんは、吉田修景課の説明後に「ここは、ここは、一回、みんなで、風呂入りしよう。一部が拍手が上がった。『危ないから移動しよう』と言ったり、効果があると考えた。翌10日朝、予想以上に多くの人が賛同した。避難所では炊き出しを任じた。飯沼美智子さん(68)は、吉田修景課の話を初めて危機感を持ったという。『まさか、外がそんな状況だなんて。情報が閉ざされ、能登半島全体がこんな惨状なの、知らなかった。』



津波 最短2分最大31m

避難時の備え今できることを

南海トラフ地震は、想定最大津波高が31メートルに達する。津波が押し寄せた瞬間に、2分以内の最短到達時間となる地域もある。津波が押し寄せた瞬間に、2分以内の最短到達時間となる地域もある。津波が押し寄せた瞬間に、2分以内の最短到達時間となる地域もある。

南海トラフ巨大地震 都府県別の被害想定

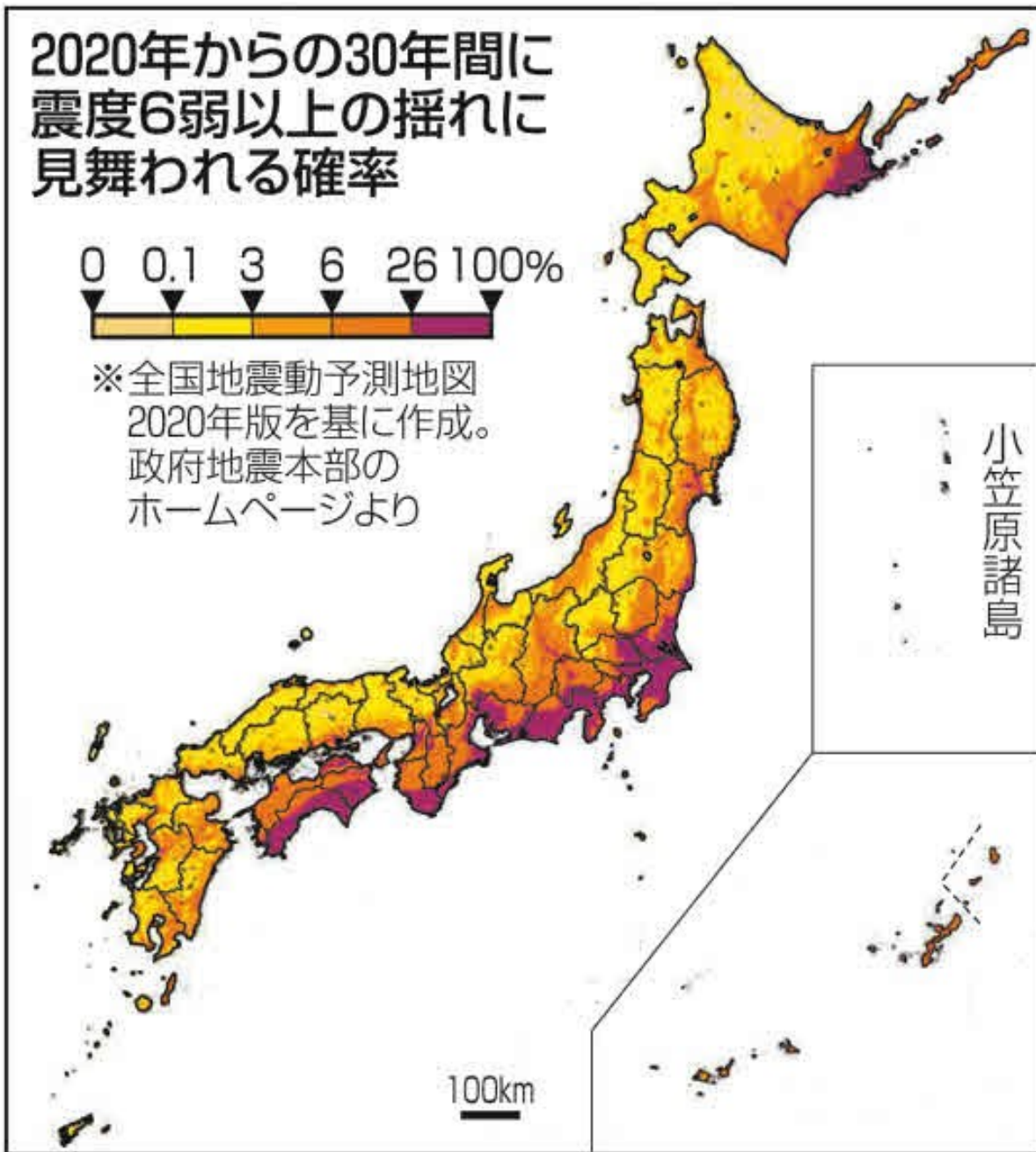
都府県	被害想定 (人)
北海道	10
東北	20
関東	100
中部	200
近畿	300
中国	400
四国	500
九州	600
沖縄	700
合計	1,800

- ### 日ごろからの地震への備えを再確認
- 避難先などの確認
 - 家族の居場所や連絡方法を確認
 - 非常用袋やヘルメットを玄関に置く
 - 家具の固定 (転倒防止対策など)
- #### 非常用持ち出し袋の中身
- 貴重品**
 - 現金
 - 運転免許証
 - 保険証券
 - マイナンバーカード
 - 食料品**
 - ミネラルウォーター
 - 缶詰
 - 乾パン
 - インスタント食品
 - レインウェア
 - 衛生用品**
 - マスク
 - 消毒液
 - 手拭い
 - トイレ用紙
 - 生理用品
 - その他**
 - 懐中電灯
 - ラジオ
 - 携帯電話
 - 予備電池
 - 筆記用具
 - 現金
 - 現金
 - 現金

2020年からの30年間に 震度6弱以上の揺れに 見舞われる確率



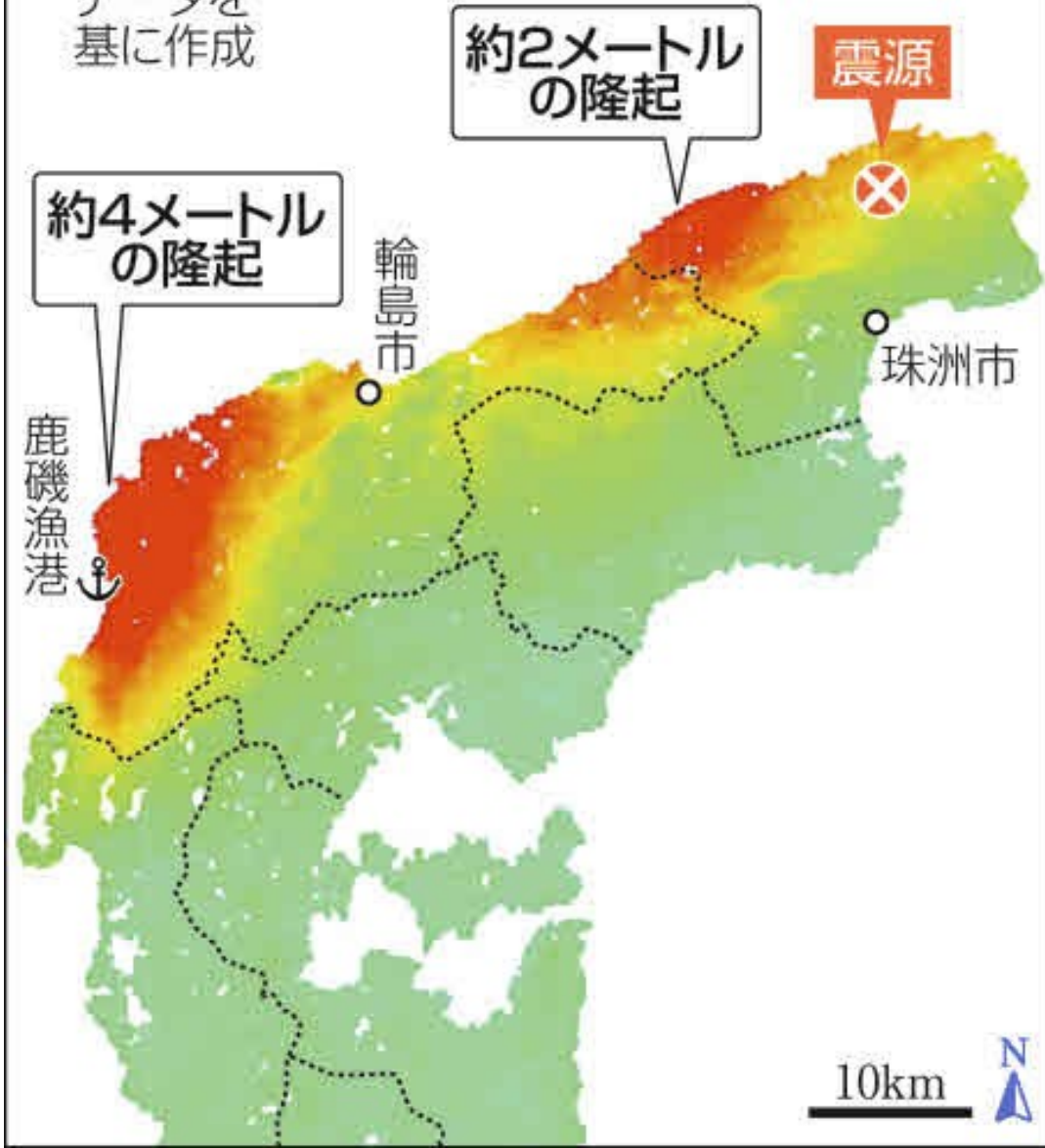
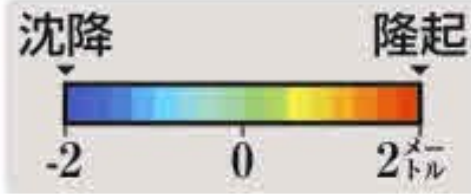
※全国地震動予測地図
2020年版を基に作成。
政府地震本部の
ホームページより





能登半島地震に伴う地殻変動

※国土地理院のデータを基に作成



地元で産みたいけど

安全な体制づくり進まず

北陸地方産品の消費拡大を促す「地元産品消費促進法」が、産地と消費者をつなぐ役割を果たしている。しかし、産地側では安全な体制づくりが進まず、消費者の不安を解消できない現状がある。



産地側では安全な体制づくりが進まず、消費者の不安を解消できない現状がある。

安全な体制づくり進まず

産地側では安全な体制づくりが進まず、消費者の不安を解消できない現状がある。

産地側では安全な体制づくりが進まず、消費者の不安を解消できない現状がある。

産地側では安全な体制づくりが進まず、消費者の不安を解消できない現状がある。

産地側では安全な体制づくりが進まず、消費者の不安を解消できない現状がある。

産地側では安全な体制づくりが進まず、消費者の不安を解消できない現状がある。

産地側では安全な体制づくりが進まず、消費者の不安を解消できない現状がある。

産地側では安全な体制づくりが進まず、消費者の不安を解消できない現状がある。

鶴保氏が発言撤回、陳謝

「運のいい」で「能登」地震

鶴保浩平氏が「運のいい」と発言したことが、能登半島地震の犠牲者や被害を受けた地域に大きな衝撃を与えた。鶴保氏は発言を撤回し、陳謝した。



鶴保浩平氏

鶴保浩平氏は、7月9日の記者会見で「運のいい」と発言したことが、能登半島地震の犠牲者や被害を受けた地域に大きな衝撃を与えた。鶴保氏は発言を撤回し、陳謝した。

鶴保浩平氏は、7月9日の記者会見で「運のいい」と発言したことが、能登半島地震の犠牲者や被害を受けた地域に大きな衝撃を与えた。鶴保氏は発言を撤回し、陳謝した。

鶴保浩平氏は、7月9日の記者会見で「運のいい」と発言したことが、能登半島地震の犠牲者や被害を受けた地域に大きな衝撃を与えた。鶴保氏は発言を撤回し、陳謝した。

鶴保浩平氏は、7月9日の記者会見で「運のいい」と発言したことが、能登半島地震の犠牲者や被害を受けた地域に大きな衝撃を与えた。鶴保氏は発言を撤回し、陳謝した。

鶴保浩平氏は、7月9日の記者会見で「運のいい」と発言したことが、能登半島地震の犠牲者や被害を受けた地域に大きな衝撃を与えた。鶴保氏は発言を撤回し、陳謝した。

米、銅に50%追加関税

日本企業にも影響か

米、銅に50%追加関税。日本企業にも影響か。

米、銅に50%追加関税。日本企業にも影響か。

米、銅に50%追加関税。日本企業にも影響か。

米、銅に50%追加関税。日本企業にも影響か。

北陸 中日新聞

全助けたという気持ちで勇気を振り絞った
心身の状態を回復させるための医療機関
上谷市の和田町に22

北陸中日新聞社
石川県小松市南町2丁目2番3号
〒920-8872 電話 076-2611111

とろい皮膚科

皮膚科 小松市
TEL 076-294-7800

2025年 7月10日(木)

納豆の日
きょうの紙面

- 能登半島地震・豪雨関連
- 北陸の生地で新商品
- 海上運搬の共同訓練
- 豪雨関連死 初の認定

おはようどんな

23日

非公開で新法人設立委

保育大手タミー求人
サカイ、内部告発者提訴

ニュース 1.7倍

【ヒート】
コメ、野菜に続き家計打撃

石川さんバレット 記者の目

フォトグラファーとしても活動するのと鉄道の語り部の女性について、山谷正裕記者が紹介します。 夕6:30ころから

小説「ここにいるよ」

瀬川 幸子 著
お梅やみ

アンパンマンの生みの親 やなせたかしの伝記

初伝記絵本 今こそ知ってほしい!
やなせたかし物語
なんのために生まれてなにをして生きるのか
やなせスタジオ/作・絵 定価:1,540円(税込) 32ページ

子ども戦争と平和

戦後80年特別企画
37年
子ども戦争と平和
戦争と平和について考えるきっかけとなる本

危険・有毒虫図鑑

革命的な科学的な「暴動虫決定本」!
新サイバー! 1冊年刊!
危険・有毒虫図鑑
4冊計・344頁・定価1,540円

石川で震度7



倒壊し原形をとどめない家屋＝1日午後、石川県能登町で

輪島港で1.2メートル以上津波

1日午後4時10分ごろ、石川県志賀町で震度7の地震があり、北海道から九州にかけての広い範囲で揺れを観測した。気象庁は石川県能登地方に大津波警報を発表、午後8時半に警報に切り替えた。石川県の輪島港では1・2メートル以上の津波を観測。林芳正官房長官は家屋の倒壊などで生き埋めが6件あったと明らかにした。石川県では、輪島市で大規模な火災が起き、家屋倒壊も複数の自治体で起きた。新潟、富山、福井の各県でけが人が出た。気象庁は「令和6年能登半島地震」と命名。震源は石川県輪島市の東北東30キロ付近で、深さはごく浅い。地震の規模はマグニチュード(M)7・6と推定される。

中日新聞

中日新聞 | 北陸地方版 | 〒920-0001 石川県能登町 | 電話 076-232-1111

2024年(令和6年) 1月1日(月)

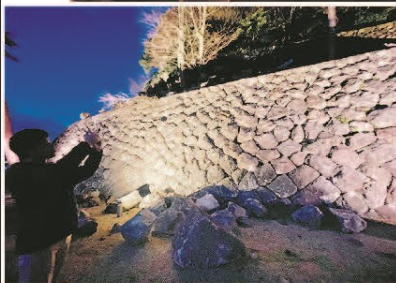
号外

0120-45-4010
ためしよみ・購読の
お申し込みは

ネットで
ニュース
中日ウェブ
中日スポーツ
検索

猛威

複数の建物が燃えている大規模火災の現場。1日午後6時18分、石川県輪島市河井町で、本社へリ、まなづる」から



地震で一部が崩れた金沢城の石垣
= 1日午後6時28分、金沢市で

爪跡不安



斜面が崩れて通行止めた道路
= 1日午後6時42分、金沢市御所町で

相次ぐ地震で、石川県庁に避難した人たちが1日午後6時33分、金沢市で



元日の北陸 突然の恐怖

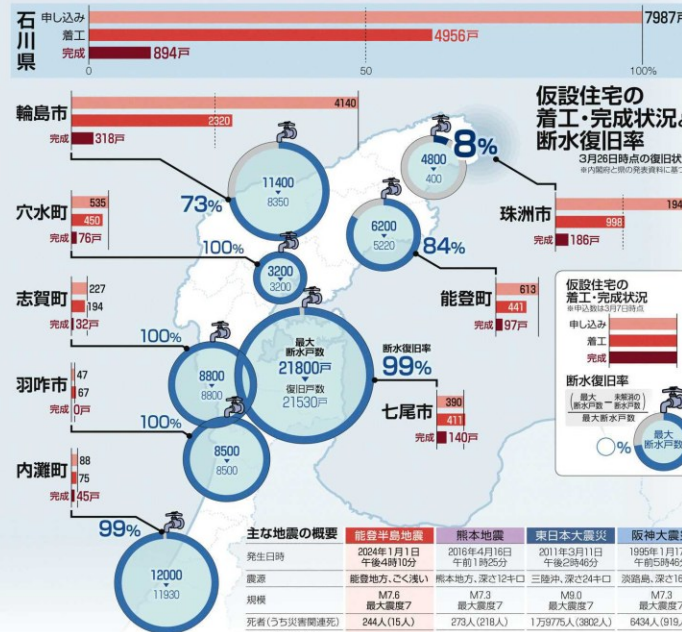
元日の北陸地方を最大震度7の地震が直撃した。石川県の能登地方では大津波警報が出され、大規模火災も発生。至る所で建物が倒壊し、道路が寸断された。やまぬ余震に住民らの不安が強まっている。



寸断

大きく陥没した自動車道= 1日午後、石川県穴水町で (読者提供)

生活再建 険しい道



主な地震の概要

	能登半島地震	熊本地震	東日本大震災	阪神大震災
発生日時	2024年1月1日 午前14時52分	2016年4月16日 午前2時46分	2011年3月11日 午後2時46分	1995年1月17日 午前5時46分
震源	能登地方、ごく浅い	熊本地方、深さ12キロ	三陸沖、深さ24キロ	淡路島、深さ16キロ
規模	M7.6	M7.3	M9.0	M7.3
最大震度	7	7	7	7
死者(うち災害関連死亡)	244人(16人)	273人(218人)	1万7975人(3802人)	6434人(919人)
行方不明者または安否不明者	3人	0人	2550人	3人
住宅の全壊	8846棟	8667棟	12万2650棟	10万4906棟
避難者(最大)	約3万4千人	約19万6千人	約47万人	約22万人

- 復旧の歩み**
- 1月1日 能登半島地震が発生
 - 12日 輪島市と珠州市で仮設住宅の建設工事が始まる
 - 17日 金沢市の避難所で災害ボランティアの活動始まる
 - 27日 能登空港と羽田空港を結ぶ旅客便が再開
 - 31日 停電は「おおむね復旧」と北陸電力が発表
 - 2月3日 輪島市で仮設住宅への入居始まる
 - 6日 石川県の全小中学校で休校解消
 - 15日 JF七尾線が全線再開
のと鉄道のと七尾-能登中島間が運転再開
 - 3月1日 穴水町で断水解消、奥能登地域で初
 - 10日 珠州市の中心部で上下水道が再開
のと里山海道と能越自動車道の輪島方面行きが全線復旧
 - 23日 「輪島朝市」、金沢市で出張開催
 - 26日 和倉温泉の「観瀧」が営業再開
 - 4月6日 のと鉄道が全線再開予定

過去の震災と比較

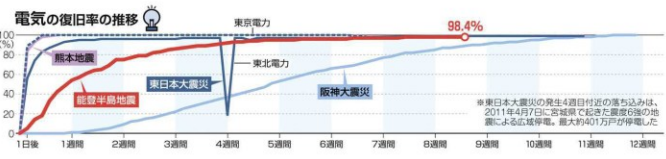
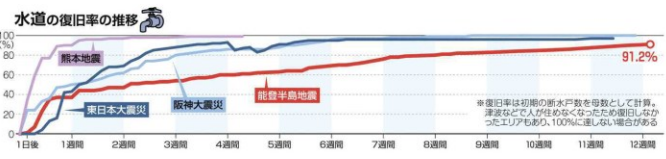
断水今も復旧遅れ顕著

能登半島地震は、発生から約3か月となる3月26日時点で91%の断水復旧率は、熊本地震と東日本大震災も約2カ月後にそれぞれほぼ復旧を終えており、能登半島地震との差は一目瞭然だ。

過去の地震と比較して復旧率に大きな差があることについて、能登半島教授は「半島地形のため人員や資機材を投入しにくいため、復旧に時間がかかっている」と理由を示す。金沢と能登をつなぐ道路が軒並み被害を受けた



能登半島 能島暢呂 岐阜大教授 半島地形 作業に支障



仮設住宅 希望数に遠く

能登半島地震は17日発から3カ月となる。ライフラインは道路、鉄道、電気の復旧が進んだ。一方で、水道は市内の9割、断水が解消されていない。被災者が自ら希望する仮設住宅を確保する準備ができていない。

石川県によると、輪島市や珠州市、能登町など市町村で仮設住宅の建設が進んでいる。入居の申込件数は、計7987戸に上り、着工済みの数は3月26日時点で4800戸、完成済みの数は2153戸に達している。一方で、被災者の希望する仮設住宅の数は約1万戸に上ると見られる。被災者の希望する仮設住宅の確保が急務となっている。



被災記者の本紙コラム 本に

能登半島地震の発生以来、北陸中日新聞の朝刊「能登版」で1日も欠かさず続く掌編コラム「半島記者つぶやき」の単行本が18日、時事通信社から発売される。被災した能登の印刷所で刷り、全国に届ける。収益の一部を寄付する取り組みで復興を支援する。石川県出身で、米大リーグ・ヤンキースやプロ野球巨人などで活躍した松井秀喜さんが「傷ついた能登のために」と、帯にメッセージを寄せた。

タイトルは「能登半島記（未完）被災記者が記録した300日の肉声と景色」。能登9市町を統括する七尾支局の前口憲幸支局長がつづった。東京新聞の朝刊「特報面」にも転載さ

全国の書店に並ぶ能登半島記（未完）。松井秀喜さんが帯にメッセージを寄せた



松井秀喜さん 帯にメッセージ



能登版で毎日掲載のコラム「半島記者つぶやき」。地震以来の300日分が一冊の本になる

れている写真付きの囲み記事で、被災地を歩き、耳を傾け、書き続けた10月末までの計300本を一冊にまとめた。月ごとに「追想」を書き下ろし、編集した。本紙は度重なる災害に深刻な損失を被りながらも踏ん張る地元企業を応援していく決意を込め、印刷は七尾市に本社を置き、輪島市に営業所がある石川印刷に依頼した。こうして「微力

販売店でも注文可
能登半島記（未完）は、A5判224ページのオールカラー。定価2200円（税込み）。全国の書店に並ぶほか、北陸中日新聞の販売店でも注文を受け付ける。

だが、能登に関わりたくないの思いを共有し、書籍化へと導いたのは時事通信出版局（東京都中央区銀座）。被災地ゆえ、資材の入手や物流で苦労しながら生まれた本が東京を経由し、リリースされる。
松井さんは「能登の明るい未来を信じて日々を生き抜いている方々がここにいます。心からのエールを送ります」との言葉を紡ぐ。あの日から、もうすぐ1年。まだ通れない道があり、崩れた家があり、避難者がいる現状を踏まえ、大災害は終わっていない現実を伝えるため、タイトルに「未完」を添えて発売する。

能登で印刷「能登半島記(未完)」きょう発売



能登半島記（未完）を紹介するQRコード

本紙コラム単行本「能登半島記」

能登半島地震の発生以来、北陸中日新聞の朝刊「能登版」で一日も欠かさずに連載した掌編コラムをまとめた単行本「能登半島記（未完）」。被災した能登の印刷所で刷り、全国に届けられている。被災地のリアルを一人でも多くの人たちに伝え、少しでも復旧復興に役立ててもらおうと、出版元の時事通信社と、全力で災害報道を続ける中日新聞社は、収益の一部を能登の6市町に贈る。

収益でも復興後押し

11日には、時事通信出版局の花野井道郎社長、中日新聞北陸本社の八木光世編集局長、著者の前口憲幸七尾支局長らが七尾市役所を訪問。義援金として茶谷義隆市長に手渡した。

花野井社長は「被災地を歩き、ありのままを拾い集め、きめ細かに記録した一冊。能登の物語として届けたいと思った」と出版に至った経緯を説明。茶谷市長は、地震直後から休むことなく発信された200字余りの記事について「新聞の小さなコラムから能登各地の現状が手に取るように分かった。各市町が心を一つに、オール能登で、一体感を持つて前に進んでいくことの大切さを実感した」と書籍化に敬意を表した。地震と豪雨で七尾市の本社と輪島市の営業所が被害を受けながら、印刷を請け負った石川印刷の佐味一郎専務も同席。受注について「励まされた思い。能登で生まれたこの本を通じて、能登の景色、能登の人たちを知ってほしい」と願った。

本社と時事通信社 能登6市町に寄付



時事通信社と中日新聞社を代表し、義援金を届けた関係者ら（七尾市役所で）



能登半島記（未完）＝写真＝は、A5判224ページのオールカラー。収録された掌編コラムは本紙「能登版」にある写真付きの囲み記事「半島記者つづき」で、東京新聞（中日新聞東京本社）の朝刊「特報面」にも転載された。被災地を歩き、耳を傾けた計300本を二冊にまとめ、月ごとに「追想」を書き下ろして編集。県出身の松井秀喜さんが「傷ついた能登のために」と、帯にメッセージを寄せた。定価2200円（税込）。

全日本の書店のほか、北陸中日新聞の販売店でも注文を受け付けている。

能登半島記 (未完)

―被災記者が記録した
300日の肉声と景色

北陸中日新聞七尾支局長
前口憲幸

みんなで一緒に
揺れ、泣き、耐え、生きて
前口憲幸 文・写真

能登半島

(未完) 被災記者が記した
300日の肉声と景色

能登の明るい未来を信じて日々を
生き抜いている方々がここにいます。
心からのエールを送ります。

色 た 口 松井秀喜

能登在住の新聞記者・前口憲幸氏(北陸中日新聞七尾支局長)が、震災発生以来、今もなお毎日執筆・発信し続け、地元の被災者から大きな共感を呼んでいる現地レポートと写真を書籍化。取材者であり、被災者でもある著者が、さまざまな思いを抱えながら、地元の人と同じ目線で綴るリアルタイムの記録を、震災一年の節目を前に全国に届ける。



【著者プロフィール】前口憲幸(まえぐち・のりゆき)
北陸中日新聞七尾支局長。入社後、ほぼ石川県内で記者道を歩んできた。北陸本社報道部で警備司法キャンプや石川県政キャンプ、遊軍キャンプ、ニュースデスクなどを務め、さまざま調査報道にも取り組んできた。2023年3月から七尾支局長。被災した支局で地震取材を指揮している。

こちらからご注文いただけます



Amazon



Rakuten



Booksite



Booktopia

反響続々
重版出来!
好評発売中!!

2024年12月刊行
A5判・208頁程度
ISBN: 9784788719989・C0036
定価: ¥2,200(税込)